

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念 ・その人らしい生活 ・家族との絆 ・地域社会の一員として		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が、日常的に理念に基づいた実践をし、言葉にして職員に伝えている。 職員間においても、毎日の朝礼、終礼、週一回のミーティングで全職員が議論し、確認している。	○	取り組みを継続して行い、ミーティング等の質を保ち、向上を目指す。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域で月一回の定例会（ご近所応援団）を開催している。よりあいの実践を通し、住み慣れた地域で暮らし続ける為の取り組みをしている。便りの発行・年1回の祭りを通して、よりあいの活動を伝えている。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	月1回の定例会（ご近所応援団）や便りを配ったりと、よりあいをもっと身近に感じてもらえるように努力している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	一事業所としてではなく、ご近所応援団として地域の祭りに参加し、自治協議会や近くの商店街とのつながりを深めている。便りの発行など地域や公民館などに配り交流に努めている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の事業所が集まり、月1回の定例会（ご近所応援団）を開催している。 地域の困り事など、高齢者に限らず、子供から障がいを抱える方の問題に積極的に取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価に取り組む事で改めて日々の仕事を振り返ることが出来ている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催できていない。まず、日程化し開催していく。	○	
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターと連携し、サービスの向上に努める。	○	
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は知識を有しているが、全職員が理解しているとはいえない。パンフレット、資料等は常備している。		地域権利擁護事業や成年後見人制度を組織として学習会を開いたり、個人学習で知識を習得していく。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	集団指導等の資料などから虐待防止法について学んでいる。日々の送迎では家族と話し、家族関係に注意をはらっている。定期的な家族会の開催により介護者が負担や葛藤を共有する事で心的不安を軽減している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には説明し納得は得ている。送迎時や家庭訪問などで、利用者の負担や、家族の不満など聞く場も作っている。	○	家庭訪問の定例化や家族の施設への訪問を多くしてもらうように働きかける。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方々には心身の衰えも進み、話すこ と、動く事も出来なくなっている。利用者 の表情や仕草などからケアの方針を導き出 す為に、毎日の終礼や週1回のミーティ ングで客観的に判断し支援できるように努め ている。	○	家族が施設に訪問し介護を共有する場面を 作っていきたい。ケアの方針に今以上に家 族の意見を取り入れていく。
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	家族に頻繁に会いに来ていただけるように 支援している。その際に、写真や便りにて 暮らしぶりを伝えている。 往診・受診の際には出来るだけ、家族には 同席もらうようお願いしている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームの玄関に苦情箱を設置して いる。 家族との接点を多く持つ努力をし、苦情や 意見を言える関係作りに力を入れている。 年4回の家族会を実施し、運営も家族とと もに考えていく。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	週1回のミーティング、月2回の職員研修 などで運営は職員全員で考えている。職員 全員が良い職場環境を作る様に考えてい る。 管理者も常に職員の声を聞く努力をしてい る。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	緊急時にすぐ対応できるように職員体勢を 整えている。週1回のミーティングによ り、お年寄りに合わせた職員体勢を確保で きるように話し合っている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	よりあいはお年寄りの集団に帰属する事を 支援している。お年寄り同士の馴染みの関 係を作る事で職員の退職や異動でのダメ ージを防げるようにしている。ケアについ ては週1回のミーティングで方針を決めて いるので職員の誰もが出来るようにして いる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職場が必要とする人材にあった職員採用を行っている。 採用時には、筆記試験、面接を行っている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社会保障の歴史、お年寄り・障害者に対する制度、憲法改正などなど、地域の学習会や、法人・内部研修、会議内での情勢分析の中で、知識の習得、実践を通じての気づき、等を議論を重ねている。	○	日常の出来事、新聞などから情報を得るように心がけ、職員間で社会情勢において疑問や不満など話せる関係、時間を作っていく。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度総括時に、年間の内部研修計画を職員の議論・合意のもとに立て実行している。外部研修は、組織的に参加できるように支援している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例会の事前打ち合わせを踏まえ、月に1度、地域の定例会を開催している。常に地域の7事業所参加している。その中で社会情勢の分析や地域での活動のあり方などを議論している。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員それぞれが職場環境作りに取り組んでいる。実務時間を少なくする取り組みや整理整頓など、職場全体で取り組む事で、一人で考える事も少ないのでストレス軽減にもなっている。	○	ストレスを軽減するために労働時間を少なくする為に取り組んでいるが、書類整備に追われ、軽減していないのが現状。事務の簡略化を考えている。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	「記録・ミーティング・担当制」のもと、組織づくりを行っている。実践を通して、組織の課題を導き出し、そこから個人の課題を見つけ、明文化している。責任を明確化することで仕事に対する姿勢も意欲的になっている。失敗は組織で解決するようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	グループホームの入所はデイサービスを利用し本人の状況を把握した上で決定している。その際には、本人にも十分に付き添い、意見も聴き尊重している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	グループホームの入所は、デイサービスを利用し、家族の状況を把握し、家族の意見を聴いた上で決定している。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意見を十分に聴き、まず、よりあいが出来た事、他のサービスを含めた支援の方法を考え提案している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	場の雰囲気に馴染めるように利用時間から調整し、少しずつお年寄り同士の関係を構築している。家族には様子を連絡ノートや写真などで知らせ、家族とともに考え工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者より先に動かないように心がけている。利用者の言葉や行為を尊重し支援している。その中で利用者に怒られる事や褒められる事がある。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	支援は家族との共感がないと成り立たない。日常の介護を家族と共有する事で、共に本人を支える関係を築いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	便りの発行や介護を家族と共有する事で、より本人の状況を知り、家族関係がより良い関係になるように支援している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係や場所を大切にする為にも家族に協力を経て取り組んでいる。教会の礼拝や知人との交流等。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	職員が先に配慮するのではなく、利用者の行為を尊重する事で、利用者同士の関係が生まれてくる。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療の必要などから契約が終了する事もある。家族へのアドバイスや、お見舞いなど継続して行なえるように努力している。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を汲み取る様に努力している。言葉、行為と記録に残し、週1回のミーティングでは職員全員で一人ひとりの生活問題も解決に取り組んでいる。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活暦を聴いたり、馴染みの家具や品物を持ってきてもらい馴染みの環境を作っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の意向を汲み取る様に努力している。言葉、行為と記録に残し、週1回のミーティングでは職員全員で一人ひとりの生活問題の解決に取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の記録を基に職員で議論し、担当者が計画書を作成している。家族と話し合い、合意を得ている。必要時には医者や訪問マッサージの方の意見も取り入れている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1度、課題分析を行い介護計画の変更の有無を確認している。	○	状況に合わせて、ミーティングの中で変更の有無を随時確認できるようにする。
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を週でまとめ、月でまとめ、常に共有し実践で生かせるようにしている。介護計画に日々の記録が活かされている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて時間、人員と柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご近所応援団（福祉事業所、短期大学、社会福祉協議会）を通じ、協働できる体勢を取れるようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	ご近所応援団（福祉事業所、短期大学、社会福祉協議会）を通じ、協働できる体勢を取れるようにしている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連携は出来ていない。これからの課題となっている。役所にはご近所応援団の取り組みと地域包括支援センターとの連携について相談している。	○	地域との連携が少しずつ築けている。地域包括支援センターとも急がずに関係を気づいていきたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医と関係を築けている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	生活上、必要な医療については家族と相談しながら取り組んでいる。認知症については、現実として医療側の見解や理解も様々なので、家族と相談しながら医療を位置づけている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の看護職と気軽に相談できる関係は築けていない。健康管理は職員が中心となり、協力医に相談しながら支援している。	○	地域の病院と気軽に相談できる関係を築く努力をする。
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は、お見舞いに多く通い、退院時のカンファレンスにも出席している。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用当初から、終末期に向けた支援を考えている。本人が「どこで、誰と」最期をむかえるのか家族と共に考えている。	○	終末期における医療の見解も様々に思う。本人、家族の実感を大事にし、緩やかに最期をむかえられる支援をしていきたい。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所として生活の場での医療行為はできない。点滴、胃ろうなど。月2回の往診を基本に必要な時には受診している。緊急時には相談や駆けつけてもらうようにしている。	○	終末期には家族との合意が重要となってくる。日頃から家族と介護を共有する事で、本人の生活に何が必要なのか判断していきたい。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	通所で馴染みの関係を作り、場所、職員になれてもらう事から始まる。その間に家族とも十分に話し合い、本人のダメージも最小限に抑えるようにしている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	お年寄りの言葉、行動、家族の言葉からケアを考え実践することで、先手の介護をしないようにしている。 お年寄りの意思を尊重し接している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の言葉や行為を尊重する為に先に介助しない様になっている。待つ努力をし、介助が必要な時には必ず本人に確認している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事に食べる時間、歩く事とそれぞれにあった介助の仕方や、時間を確保出来るようにしている。	○	継続し取り組めるように、職員体制の確保に努める。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は家族に調達してもらうようお願いし、美容院も家族にお願いしている。介助が必要な方は職員が付き添ったりしている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の現状と一緒に料理や片付けを出来る方がいない。晩御飯の献立など、利用者と相談しながら決めたり、季節も物を多く取り入れる事で食事も楽しめるようにしている。		
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつと日常的に楽しめるように常備している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その日の食事量やお茶をどれだけ飲めたかでパターンの把握は難しいが、必ずトイレに座るようにしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できるようにしている。現状は自分で入りたい時間や曜日を言える方が居ない。職員が利用者の意向や心身の状態を把握する事で入浴を決めている。		
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	いつでも寝られるようにしている。気持ちよく寝られるように室温の調整や衣類の調整に心がけている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりにあった役割や気晴らしの支援をしている。歩く、ドライブ、入浴、料理、掃除と個々にあった支援を大事にしている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事も大切さは理解している。金銭管理が困難な方々なので評価困難。金銭管理は家族との協力しながら行っている。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	身体の衰えと共に、外出が困難な方が多い。家族との外出の支援や馴染みの商店街への外出などに出かけられるように心がけている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の旅行や、お年寄り同士での旅行計画など機会をつくり支援している。		
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話をする事が難しい方々なので評価困難。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	いつでも訪問してもらえるように便りの発行や施設のイベントごとに協力を仰いでいる。いつでも訪問でき、過ごせるように心がけている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよに、職員体制の確保に努めている。	○	「介護保険指定基準における禁止と対象となる具体的な行為」の知識の習得に努める。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。 夜間は防犯上、鍵をかけている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や様子をさりげなく把握できるように努めている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活する上で必要な物はなくしていない。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握する事で転倒のリスクや誤嚥などのリスク回避に努めている。 ミーティングにおいても職員間で把握し確認している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを常備し、資料において対応の手順などは学んでいる。 過去に事例などから学んでいる。	○	転倒、行方不明、てんかん発作など過去の事例から学び、いつでも対応できるように学び職員間で共有していく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の避難経路や避難場所を確認し、地域住民に協力を要請できるようにしている。 ご近所応援団等の事業所間でも協力要請をそれぞれ確認している。	○	今以上に、地域住民と連携を図れるように日ごろから関係を作れるように取り組む。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	老化、生活上のリスクにおいて、常に家族と本人状態を共有しケアを確認している。	○	定期的な家庭訪問や家族会を開催し老化に伴うリスクにおいて学習し介護を共有する。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	症状、状態の変化は職員全員で共有し対応することに努め、常に家族と相談するようにしている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用は職員全員で確認し、薬の副作用は知識の習得に努めている。 症状の変化は記録に残しながら、確認するように取り組んでいる。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	心身の状態に合わせ、ストレスの軽減に努めている。 食事も食物繊維の多い食材を多く使い、乳性品を多く食べるようにしている。トイレに座る習慣をつけている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食事も美味しく楽しめるように口腔ケアに努めている。 毎食後の口腔ケアは出来ていない。	○	毎食後に口腔ケアできるようにする。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた、食事形態をとり、水分もゼリー状にしたり、とろみをつけたりし身体の状態に合わせ工夫している。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症において、マニュアル化し徹底している。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はその日その日に購入するようにしている。 台所には手洗い洗剤や消毒液を常備し衛生管理に心がけている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	100年近い建物と玄関付近には縁側もあり、家族、地域の方たちにも馴染みやすい構造となっている。玄関も広く設けており開放感がある。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	100年近い建物を改修している事もあり、生活観にはあふれている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室と共有空間が隣同士になっており、利用者同士過ごせたり、一人で過ごせたり出来る空間になっている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを置くことで、本人にとって居心地の良い空間をつくるようにしている。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には十分に気をつけている。風を感じ、季節感を味わえるように配慮している。空調や衣類の調節など利用者の身体の状態に応じ行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が先に介助するのではなく、利用者の行為を大切にしている。本人の行為、言葉から利用者本位の生活が送れるように支援している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の方は介助を有する方ばかり。介助の際には本人に確認し実行している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節の良いときは縁側やデッキで食事をしたり建物をも十分に活用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入所の方々は通所から利用されている方ばかりなので、家族との信頼関係は築けていると思う。利用期間も長く、心身の状態も低下し「最後」を意識し、意見交換をしながら介護に取り組んでいる。